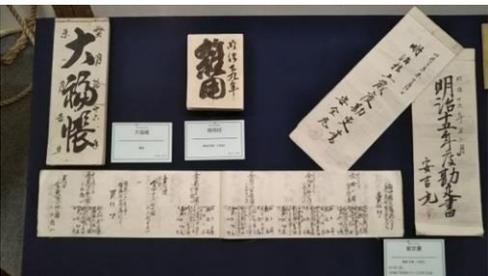


小樽市指定文化財の新規指定について

No.	資料名と概要	画像
1	<p>にしかわけもんじょ ●西川家文書</p> <p>所蔵：小樽市総合博物館 年代：文政11年（1828）～明治40年代</p> <p>江戸時代から明治期にかけて忍路を中心に商業活動を展開していた住吉屋西川家の商業記録類で、資料点数は約300点に及ぶ。近世の漁場経営の記録からは、その実態や漁場で働く人々の暮らしぶり、さらに近郊のアイヌ文化史が窺える。また、明治前期の洋式帳簿（複式帳簿）からは、物品の売買記録によって当時の小樽の物流の様子を知ることができる。近世近代の小樽を記した貴重な資料である。</p>	
2	<p>いながきますほにっし ●稲垣益穂日誌</p> <p>所蔵：小樽市総合博物館 年代：明治29年～昭和10年</p> <p>明治から大正にかけて小樽の教育界で活躍した稲垣益穂（いながき・ますほ/1858-1935）が、38年間ほぼ毎日記録した日記資料である。稲垣日誌には、小樽の最盛期ともいえる明治後期から昭和初期の街の移り変わりが克明に記されている。また、歴史に残ることの少ない市井の人々の日常が生き生きと記されている。稲垣の目を通して小樽の姿を追体験することが出来る、小樽のみならず北海道史においても貴重な歴史資料である。</p>	
3	<p>はなぞのこうえんせつけいず ●花園公園設計図</p> <p>所蔵：小樽市総合博物館 年代：明治43年</p> <p>明治43年に「近代公園の先駆者」と評される著名な造園家・長岡安平が描いた花園公園（小樽公園）の設計図である。長岡安平は、全国の公園・庭園を手掛け、道内では中島公園、円山公園、大通公園などの設計に携わった人物である。設計図は高さ240cm×幅320cm（外寸）の巨大な図面に植樹や花壇が緻密に描かれており、後の小樽公園の基本計画となった。都市公園の設計にも日本のトップリーダーを招いた、明治後期の小樽の勢いを示す資料である。</p>	